

Q 妊婦無料健診の拡充は

A 県内の動向を見て検討



▲低床バスに乗車する利用者の方

Q1 妊産婦健診の費用助成は、約2回分だが、19年度は、財政措置の拡充が見込まれるので、無料健診の回数拡充を考えるべきでは。

A1 今般、厚労省から「妊婦健康診査の公費負担の望ましいあり方について」が通知されました。妊娠出産の経済的不安を軽減し、積極的な

健康診査受診により母体や胎児の健康を確保する目的から、健康診査の回数14回程度は公費負担が望ましく、難しい場合は、最低限必要な健診の5回程度は公費負担を実施することが原則とされています。

本事業は、17年度に「妊婦・乳児医療機関委託健康診査にかかる健康診査項目等検討会」が設置され、健診項目や単価の協議を行い、県内ほぼ同一の内容で実施されています。

回数の拡充は、今後の動向を見極め検討します。妊婦健診の重要性は今後も積極的に周知します。

Q2 コンビニエンスストアでの税金納付は。

A2 コンビニでの納付は首都圏を中心に始まっており、村税に關しても現代社会における多様なニーズやライフスタイルの変化に対応すると共に、納税の利便性向上の観点からも検討します。

Q3 障害者や高齢者に配慮した「低床バス」の時刻表明記と増便の要望は。

A3 村内の路線バス事業者2社とも配布用の時刻表へは低床バスの表示済みで、1社は、停留所の時刻表にも表示済みです。

しかし、各社とも低床バスの保有台数が非常に少ない状況で、前もって車椅子の方から利用予告があつた便に低床バスを優先的に充当しています。乗降する停留所に係員を派遣するなど、可能な範囲で配慮に努めているのとことです。現状での低床バスの増便は、難しいとのこと。

村では引き続き、誰もが利用しやすいバス車輛の導入促進を図り、バス事業者に働きかけてまいります。



相原 孝彦 議員

Q 一般競争入札の導入は

A 21年度に導入を検討



柳村 正人 議員
(新志会)

Q1

契約について伺います。
① 一般競争入札、電子入札、簡易型総合評価方式の導入の考えは。

② 指名競争について、監査委員から業務の一部が数年にわたり同一業者である指摘されているが改善策の考えは。
③ 随意契約を改善する考えは。
④ 今後の契約への考えは。

A1

① 一般競争入札は、最も好ましい入札方法である。実施に当たっては、ある程度の制限や条件を加えながら、一定規模以上の大規模



▲工事が進む滝沢南中学校北校舎

工事や特殊工事を対象とすることが合理的と考えます。

また、一般競争入札における事務の効率から、電子入札制度の導入が有効なものと考えています。「岩手県電子入札システム共同運用運営協議会」のシステムを21年度からの運用をめどに参画を進めています。しかし現時点で盛岡市と本村のみの参加予定です。

簡易型総合評価方式の導入については、価格という単一要素に簡易的に工事成績、施行実績などを

総合評価し発注者にとって最も有利なものを落札者とするもので、本村も導入を検討します。

② 今後は適正な履行の確保をふまえて、競争性を高めるため業者数を増やすなど、改善に取り組みます。

③ 価格の妥当性を判断するため、2社以上から見積書を徴収し、競争性を担保し実施していますが、チェックは事業担当課に委ねていたが、今後は財務課に施行の合議を行うなどの改善を図ります。

④ 今まで「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」の施行により改善に取り組んできましたが、今後も発注工事の種類や規模、設計額等に応じ、本村に最も有効な入札方法を検討します。

Q2

コンピュータオペレーティングシステムの更新の考えは。

A2

現在、ウインドウズ2000から順次XPへ切り替えを行っており、来年度からはビスタへの移行も考えています。